

事業番号	事務事業名	優良肉用牛保留事業補助金	所管課名	産業観光課	令和 3 年度課長名	小椋 正己
03315	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則、鏡野町優良肉用牛保留事業交付要綱ほか		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町和牛生産組合員の優良肉用牛の確保及び改良増殖を推進し、高品質肉用牛の生産振興を図るため、補助金を交付する。 ・コロナ禍による経済支援対策として本年度に限り補助金額を15→20万円とし、対象頭数も8→16頭にする。 ・業務手順は、①保留申請書の受理、②認定委員会による審査・認定、③交付申請書の受理、④交付決定通知、⑤実績報告書の受理、⑥確定通知、⑦請求書の受理、⑧補助金の支払	・合併前の4町村でそれぞれ保留事業補助金を交付していたが、H17.3.1合併を機に要綱を統合した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 津山地域和牛改良組合鏡野支部	ア 組合員数(4/1時点)	人	見込 実績	24 21	21 21	21 20	20	20
イ	イ		見込 実績					
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 優良肉用牛の確保及び改良増殖	ア 保留牛補助金交付頭数	頭	目標 実績 達成率	8 8 100.0%	8 16 200.0%	8 9 112.5%	8	8 112.5%
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 認定委員会による審査、認定	ア 認定委員会による審査数	件	目標 実績 達成率	10 15 150.0%	10 16 160.0%	10 15 150.0%	10	10 150.0%
イ 補助金の支払	イ 補助金を支払う農家数	戸	目標 実績 達成率	8 6 75.0%	8 11 137.5%	8 9 112.5%	8	8 112.5%
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		04		中事業 01					事業番号			
	一般会計		農林水産業費		農業費		畜産業費		優良肉用牛保留事業補助金								
1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	決算 (千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比					
国庫支出金						国庫支出金											
県支出金						県支出金											
町債						町債											
その他特財						その他特財											
一般財源	1,200	3,200	1,200	1,200	1,200	-2,000	一般財源	1,200	3,200	1,080	1,200	1,200	-2,120				
合計	1,200	3,200	1,200	1,200	1,200	-2,000	合計(A)	1,200	3,200	1,080	1,200	1,200	-2,120				
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1						
	延べ業務事務時間						40	40	40	40	40						
	人件費計(千円)(B)						140	134	134	137	137	0					
	最終予算額						1,200 千円	予算執行率		90.0%	トータルコスト(A+B)		1,340	3,334	1,214	1,337	1,337
主な 支出事業内容 (予算)	優良繁殖雌牛保留の補助金					1,200 千円	主な 支出事業内容 (決算)	優良繁殖雌牛保留の補助金					1,080 千円				

事業番号	03315	事務事業名	優良肉用牛保留事業補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 後継者不足等により廃業が進み、和牛生産農家の数は年々減少している。飼料価格の高止まりやTPP問題等により、将来に対する不安が高まっていることから、畜産業の衰退が懸念される。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯 畜産農家の肉質改良、増産意欲の向上を図るため、H26年度から補助金を増額した(9.2万円→15万円)。認定委員会に置いて、審査対象牛に甲乙付け難い状態となり8頭に絞り込みができず、単価を下げて(15万円→12万円)8頭を10頭とした。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか? 市場での価格が高い子牛の生産ができる優良雌牛の生産に積極的に取り組みたいとの声が畜産農家から寄せられている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 ・繁殖雌牛の適正な更新や優良牛確保を行うことは、町内肉用牛振興に重要な事業である。 ・高値で取引される子牛を生産するためには、優秀な母牛が必要である。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せるとはできないか?)	
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 鏡野町内に2箇所ある公共育成牧場を十分に活用し、町と畜産農家と連携協力しながら、畜産業の活性化を推進する必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	理由説明 現状で適切である。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 繁殖雌牛の改良・増産には相当の期間がかかるため、地道な取組を続けていくことが成果の向上につながる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 鏡野町内の畜産業の衰退及び畜産農家の減少につながる。
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 ④と同じ
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 肉用牛を1頭増頭した場合の年間購入飼料費の2分の1(5万円)を3年間支給することで品種改良を増進するという趣旨の補助金である。減額することは成果の著しい低下につながる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
公平性 評価	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 必要最小限の業務時間である。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 畜産関係団体の有識者から成る認定委員会で、一定の審査基準に基づき、審査・認定を行っている。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	・畜産業を取り巻く環境は依然として厳しいが、本事業は畜産農家の経営安定と就農意欲を維持するための有効な制度となっている。																						
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 飼養頭数の少ない農家にも、酪農家の「借り腹」を推進するなどの受精卵移植(ET)を活用しながら、積極的に優良雌牛の保留に取り組んでもらうよう、情報提供等の働きかけを行う。																						
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
畜産農家を訪問し、有望な子牛は保留を勧める等の情報収集を、JAの畜産部門や県民局と連携しながら行っていくことが重要である。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																						